

「進行期非小細胞肺癌における好中球・リンパ球比(NLR)の臨床的有用性の検討」に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年9月24日～2020年3月31日

〔研究課題〕

進行期非小細胞肺癌における予後予測因子として好中球・リンパ球比(NLR)の有用性の検討

〔研究目的〕

化学療法において好中球・リンパ球比(NLR)が臨床的に有用な指標であるか明らかにします。

〔研究意義〕

好中球・リンパ球比(NLR)の有用性を明らかにすることで、今後の肺癌治療の一助とします。

〔対象・研究方法〕

2008年1月から2019年3月にかけて当院で抗がん剤治療を行った進行期非小細胞肺癌患者様。調査項目は年齢、性別、喫煙歴、Performance status、血液検査（好中球数、リンパ球数）、遺伝子変異（EGFR変異、ALK-EML4転座）の有無、一次化学療法の内容、生存期間および治療成功期間です。〔研究機関名〕

帝京大学医学部内腫瘍内科

〔個人情報の取り扱い〕

調査結果から個人が特定できないようID化し、結果は数値によって統計的に扱い、個人情報を外部に持ち出すことはしません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：関 順彦教授

研究分担者：石原 昌志 非常勤医師(帝京大学医学部附属病院)

所属：帝京大学医学部附属病院 内科学講座

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) [内線 16590]